

第6回日本の農業と食のシンポジウム

自然を守る 人類の命や生き物の命を守る

自然な種を守ること

種子法 廃止 多国籍企業による独占を懸念

今年の第6回日本の農業と食のシンポジウムも話題豊富であった。新しい動きとして日本豊受自然農が林業に目を向け、林業の整備をあげたことだ。厄介物扱いの竹林こそ地域の宝とし、竹林の素材を利用した商品開発に力を注ぐとした。由井大会長は種の重要性も説いた。



由井大会長、基調講演で明らかに

豊受自然林を立ち上げる



基調講演する由井大会長

シンポジウムの大会長の由井寅子代表は「自然を戻す日本豊受自然農」をテーマに「自然な心」と題して基調講演を行った。

由井大会長は日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)会長であり、農業生産法人日本豊受自然農代表、百姓、ホメオパスNPO法人元氣農業開発機構理事という肩書を持つ。

現代は人間が人工的に手を加えた不自然な食の問題が蔓延し、野菜たちはミネラル不足を起こし、そのような栄養の少ない野菜を食べる私達に病気が増えています。私が担当した相談会のケースを紹介いたします。

このケースでもホメオパシーと食の改善により、壊疽の進行が止まり、奇跡的な回復が見られた。

由井大会長はさらに「間違えた食の認識が健康を害し、日本古来の食を取り戻すことが大事で、農業の欧米化、大規模化によって化学肥料や農薬などで自然を破壊し、日本の農業が死に国が滅びてしまう」ということを強く指摘。

「41歳男性の糖尿病が、ホメオパシー、食事療法、併用で迅速に改善したケース」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

インチャ癒し体験も 食とホメオパシーで改善

シンポジウム午後の事例発表

松尾 敬子氏(ホメオパス、日本ホメオパシー)



松尾敬子氏



富田沙織氏



月山ハル氏

「親子3人の電磁波過敏症・化学物質過敏症が食とホメオパシーで改善したケース」

このご家族は、親子3人も、当初、頭がぼんやりしたり、体中がふらふらしたり体の麻痺感や倦怠感があり、また電磁波などの影響から外出す

不快な症状が改善し、電車等での外出もできるようになり、長女は公務員に内定、次女は既に就職されているという事例を発表した。

最後に今後ともこのよきな環境、症状に苦しんでいる方へサポートしていきたいとの思いが語られていた。

富田 沙織氏(ホメオパス、日本ホメオパシー)の改善が見られました。早急な改善が望まれるケースでしたが、クライアント自身による生活習慣の改善や、ご家族による食事面でのサポートもあり、家族一丸となり薬に頼らず健康的に生きることを決意され真摯に取り組まれたことが改善の一番の要因となったケースであった。

5めんにつづく

「連日メディアで森友学園問題が大きな報道されている間に、これまで日本古来の品種を奨励し、日本の種を守ってきた『種子法』の廃止が可決されようとしています。米、麦、大豆など主要穀類の種子を都道府県が守り継ぎ、農家に安定供給するインフラがなくなることで国際種子メジャーによる種の独占を招くことが懸念されます。そしてミトコンドリア異常の遺伝性不妊のF1や放射線照射による品種改良した食べ物、或いは遺伝子組換えは私たちの体、臓器、遺伝子まで変質される危険性があります」と指摘しながら「豊受自然農では、自然な粉が販売された。

自然林は自然な森が山が木々が、肥沃な土や川や海を作ることをモットーにしており、新しい製品として、有り余る自然資源の活用が期待されています。やがて頻繁な尿意や口渇感、体重の減少などの症状が出始めるようになり、健康診断の結果、糖尿病と診断された。

20代の月山さんは、いつも満たされない不足感、無価値感、虚無感があり、生きることが苦しくなってきた。この世界から消えてなくなりたいと鬱になった。

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」

「インナーチャイルド癒し体験」